

水田における小麦「ゆめかおり」の製パン適性に優れるタンパク質含有率を確保する施肥方法

要旨

水稲後水田（淡色多湿黒ボク土）における硬質小麦「ゆめかおり」は、開花期追肥により適切なタンパク質含有率を確保できます。

1. 背景及び課題

- 「ゆめかおり」は硬質小麦であり、タンパク質含有率13%程度が望ましい。
- 生産量拡大に向けて、水田の作付けが必要であるがタンパク質含有率が上がりにくい。

2. 基肥・茎立期追肥・開花期追肥

- 基肥は窒素量6～8kg/10a、茎立期追肥は窒素量2～4kg/10a。
- タンパク質含有率確保のためには、開花期の尿素溶液葉面散布または、硫安散布が有効です。

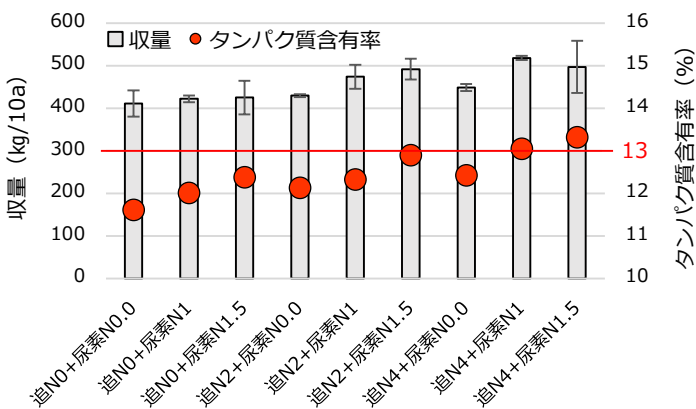


図1 尿素葉面散布における試験別の収量とタンパク質含有率（基肥窒素量6kg/10a、横軸ラベルは茎立期追肥+開花期追肥）

開花期の尿素葉面散布では、窒素量1.0～1.5kg/10aで適正なタンパク質含有率の確保ができます。

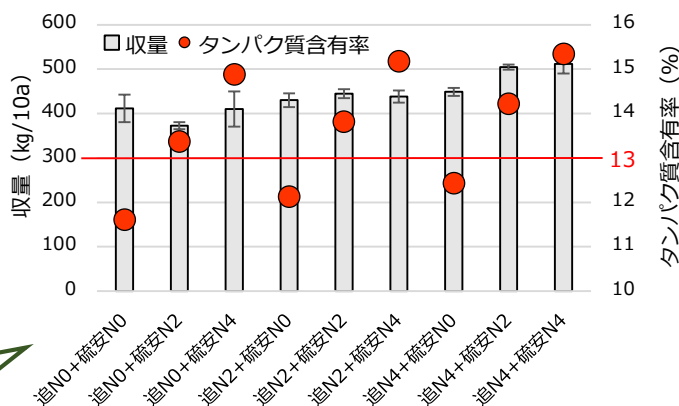


図2 硫安散布における試験別の収量とタンパク質含有率（基肥窒素量6kg/10a、横軸ラベルは茎立期追肥+開花期追肥）

開花期の硫安散布では、窒素量2.0kg/10aで適正なタンパク質含有率の確保ができます。

<利用上の注意点>

- 本研究では、2%尿素溶液を160L/10a散布し、葉焼けの被害はありませんでした。
- 開花期の尿素葉面散布は、赤かび病防除と同時に散布すると効率的です。